

基準病床数について

令和5年12月

宮崎県福祉保健部医療政策課

基準病床数の見直しについて

第8次医療計画策定に向けて基準病床数の見直しを行ったところ、一般病床及び療養病床において、**5つの医療圏（宮崎東諸県、都城北諸県、延岡西臼杵、西諸、西都児湯）で基準病床数が増え、宮崎東諸県では基準病床数が既存病床数を上回る算定結果となった。**※

※令和5年8月5日時点の既存病床数と比較した結果

参考：基準病床数は、二次医療圏ごとの病床数の整備目標であるとともに、それを超えて病床数が増加することを抑制する基準で、全国統一の算定式により算定（既存病床数が基準病床数を超える地域では、原則として新たな病床の設置はできない）

基準病床数の算定式

出典：厚生労働省「医療政策研修会」資料

○ 各都道府県において、**一般病床・療養病床は二次医療圏ごと**に、以下の算定式に基づき算出。

一般病床及び療養病床の基準病床数 = ア + イ ± ウ

ア：一般病床

$$\text{人口} \times \text{一般病床退院率} \times \text{平均在院日数} + \frac{\text{流入入院患者数} - \text{流出入院患者数}}{\text{病床利用率}}$$

イ：療養病床

$$\text{人口} \times \text{療養病床入院受療率} - \text{介護施設、在宅医療等対応可能数} + \frac{\text{流入入院患者数} - \text{流出入院患者数}}{\text{病床利用率}}$$

ウ：都道府県を越えた患者流出入

都道府県外への流出入を見込む場合、それぞれの都道府県間で調整協議を行い、合意を得た数を加減。

| 項目 | 都道府県知事が算定に用いる値 |
|-------------------|--|
| ①人口 | 性・年齢階級別（医療計画作成時の夜間人口であって、最近のもの）を活用。 |
| ②一般病床退院率 | 国が設定した、性・年齢階級別かつ地方ブロック別の値を活用。【平成29年患者調査】 |
| ③平均在院日数 | 国が設定した、地方ブロック別の値を上限として、都道府県知事が設定した値を活用。【平成27年・令和元年病院報告】（参考：第7次の設定 13.4～16.3日） |
| ④病床利用率 | 国が設定した値を下限として、都道府県知事が設定した値を活用 【平成28～令和元年病院報告の平均】（参考：第7次の設定 一般76%、療養90%） |
| ⑤療養病床入院受療率 | 国が設定した、性・年齢階級別の値を上限として、都道府県知事が設定した値を活用。【平成29年患者調査】 |
| ⑥介護施設及び在宅医療等対応可能数 | 都道府県が、地域医療構想における推計と総合的に設定した値を活用。 ※地域医療構想では、令和7年に向けて、現在の療養病床以外で対応可能な患者は介護施設・在宅医療等で対応する前提を置き、病床数の必要量を推計。医療計画の基準病床も、これに相当する需要（対応可能数）を除外して計算。 |

算定の結果

基準病床数の算定結果は以下のとおり

第7次医療計画との比較（一般及び療養病床）

| | ①次期（第8次） | ②現行（第7次） | ③増減(次期－現行) |
|-------|----------|----------|------------|
| | 基準病床数 | 基準病床数 | 増減 |
| 宮崎東諸県 | 5,429 | 4,930 | 499 |
| 都城北諸県 | 2,233 | 2,076 | 157 |
| 延岡西臼杵 | 1,660 | 1,524 | 136 |
| 日南串間 | 739 | 962 | -223 |
| 西諸 | 775 | 767 | 8 |
| 西都児湯 | 819 | 807 | 12 |
| 日向入郷 | 771 | 819 | -48 |
| 計 | 12,426 | 11,885 | 541 |

第8次医療計画における基準病床数と既存病床数（一般及び療養病床）

R5. 8. 5現在

| | ①基準病床数 | ②既存病床数※ | ③基準-既存 | 2025年の |
|-------|--------|---------|------------|-------------------|
| | | | (病床設置可能数) | 病床必要量 (地域医療構想) |
| 宮崎東諸県 | 5,429 | 4,947 | 482 | 4,445 |
| 都城北諸県 | 2,233 | 2,313 | -80 | 1,911 |
| 延岡西臼杵 | 1,660 | 1,700 | -40 | 1,357 |
| 日南串間 | 739 | 974 | -235 | 877 |
| 西諸 | 775 | 989 | -214 | 795 |
| 西都児湯 | 819 | 957 | -138 | 908 |
| 日向入郷 | 771 | 898 | -127 | 746 |
| 計 | 12,426 | 12,778 | -352 | 11,037 |

※既存病床数について

医療法施行規則第48条に基づき、

平成30年4月1日以後に療養病床から介護老人保健施設及び介護医療院へ

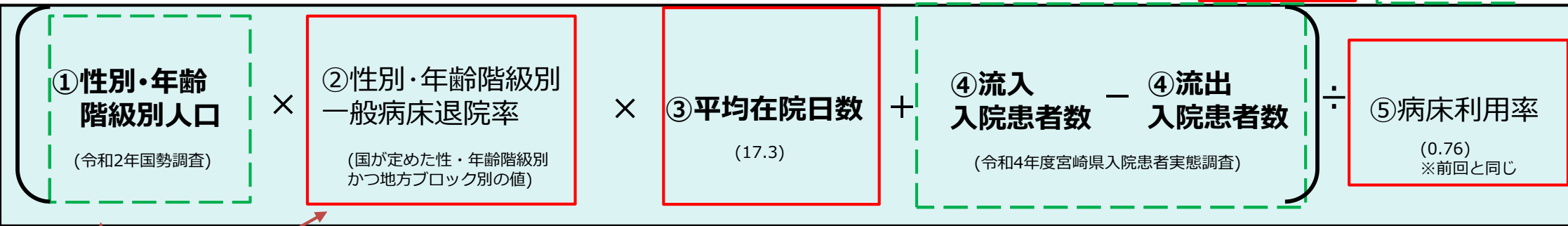
転換を行った療養病床数は、令和6年3月31日までの間は既存病床数として算定

基準病床数が増える主な要因

国が定める算定式：一般病床

国が定める値

都道府県で設定



老年人口(65歳以上)の増加
⇒基準病床数の増

平均在院日数の増(国告示：16.3→17.3)
⇒基準病床数の増

流入超過地域は基準病床数増

国が定める算定式：療養病床



老年人口(65歳以上)の増加
⇒基準病床数の増

流入超過地域は基準病床数増

病床利用率の減(国告示：0.9.→0.88)
⇒基準病床数の増

基準病床数増の主な要因(宮崎東諸県)

基準病床数が既存病床数を上回る算定結果となった宮崎東諸県医療圏について、
基準病床が増加した要因を確認した

①総人口

| | 第7次 | 第8次 | 比較 |
|-----|---------|---------|------------|
| 宮崎市 | 401,138 | 401,339 | 201 |
| 国富町 | 19,606 | 18,398 | -1,208 |
| 綾町 | 7,345 | 6,934 | -411 |
| 合計 | 428,089 | 426,671 | -1,418 |

⇒ 人口は約1,400人の減少
(宮崎市は人口が増えている)

②老年人口(65歳以上)

| | 第7次 | 第8次 | 比較 |
|--------|---------|---------|---------------|
| 65~70歳 | 33,139 | 30,715 | -2,424 |
| 70~75歳 | 23,733 | 31,734 | 8,001 |
| 75~80歳 | 19,748 | 21,993 | 2,245 |
| 80歳以上 | 34,283 | 39,033 | 4,750 |
| 合計 | 110,903 | 123,475 | 12,572 |

⇒ 一方で、老年人口が増えている
(70歳以上の人口は14,996人増)
⇒ 年齢が高くなるほど、一般病床退院率・
療養病床入院率が上がり基準病床数が増える

③入院患者流出入


| | 流入 | 流出 | 増減 |
|------|-----|----|-------------------|
| 一般病床 | 694 | 82 | 612 (流入超過) |
| 療養病床 | 78 | 53 | 29 (流入超過) |

⇒ **流入超過(流入-流出)が600人以上**

④その他の要因

一般病床
平均在院日数の増(国告示: 16.3→17.3)

療養病床
病床利用率の減(国告示: 0.9.→0.88)

- 
- ・ 老年人口の増加、圏域外からの入院患者の流入等が影響し、基準病床数が増加
 - ・ 既存病床数と基準病床数の差が17床(令和5年10月末時点)と僅少であったこともあり、第8次医療計画では基準病床数が既存病床数を上回る事となる。

第8次医療計画での方向性について(案)

【第8次医療計画での方向性(案)】

- 基準病床数が既存病床数を上回る医療圏では、病床の設置・増床が可能となるが、新たな病床の整備については、地域医療構想における将来の病床の必要量や関係機関との協議を踏まえて検討する。

参考：宮崎東諸県医療圏の2025年における病床の必要量

| 項目 | 令和4年度(2022年度) 病床機能報告値 | 令和7年(2025年度)における 病床数の必要量 |
|--------------|--------------------------|-----------------------------|
| 病床数 | 高度急性期 707 床 | 高度急性期 558 床 |
| | 急性期 2,501 床 | 急性期 1,602 床 |
| | 回復期 823 床 | 回復期 1,324 床 |
| | 慢性期 1,027 床 | 慢性期 962 床 |
| | (休棟等) 146 床 | |
| | 計 5,204 床 | 計 4,445 床 |
| | | 在宅医療等の必要量 6,523.8 人/日 |
| 病床数 (構成比) | 高度急性期 13.6 % | 高度急性期 12.6 % |
| | 急性期 48.1 % | 急性期 36.0 % |
| | 回復期 15.8 % | 回復期 29.8 % |
| | 慢性期 19.7 % | 慢性期 21.6 % |
| | (休棟等) 2.8 % | |